

ドキュメンタリー映画

『ポバティニー・インク ～あなたの寄付の不都合な真実～』

2016.8.6（土）渋谷アップリンクほか公開

寄付の行方を知っていますか？



ポバティニー・インク

あなたの寄付の不都合な真実

POVERTY, INC.

「変化がないのには理由がある。変化によって損をするのが強者であり、悪者を受けるのが弱者だからだ。ーマキャベリ」

unitedpeople.jp/povertyinc/

東京：〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 ユナイテッドピープル株式会社 電話：03-5561-0001

大阪：〒550-0001 大阪府大阪市東淀川区東中津1-1-1 ユナイテッドピープル株式会社 電話：06-6644-0001



ユナイテッドピープル株式会社
pr@unitedpeople.jp 090-8833-6660

あなたの”善意”が、誰かを傷つけているかもしれない

「貧しい気の毒な人たちのために手を差し伸べよう」「彼らは無力で何もできない」そんなイメージを謳い、繰り返されてきた営利目的の途上国開発は、今や数十億ドルに及ぶ巨大産業となっている。その多くの援助活動が失敗に終わり、援助の受け手がもともと持っている能力やパワーも損ないさえする。

私たちの「支援」がもたらす問題は？正しい支援のあり方とは？途上国とどう向き合うべきなのか？ハイチやアフリカを主な舞台に、“支援される側”の人たちの生の声を伝えるドキュメンタリー。

映画概要

営利目的の途上国開発業者や巨大な NGO などにより、数十億ドルにも及ぶ「貧困産業」が生まれ、そのなかで先進国は途上国開発の指導者として地位を獲得してきた。慈善活動のビジネス化が歴史上これほどまでに発展を遂げたことはない。しかし、「気の毒な人々を何とかしなければ」「彼らは無力で何もできない」といったイメージを先進国側の人々に植え付けるプロモーションや、一方的な押し付けで受け手側の自活力を損なうような援助のやり方に、反対の声をあげる途上国側のリーダーは増えている。

本作『ポバティー・インク ～あなたの寄付の不都合な真実』（原題：POVERTY, INC.）は、靴を一足購入するごとに途上国に一足贈るトムスシューズや、途上国発の太陽光パネルベンチャー企業、国際養子縁組やアメリカの農業補助金などについて取り上げながら、私たちに、支援のあり方について問いかける。20ヶ国で200人以上に行なったインタビューは、もはや無視することができない、“寄付の不都合な真実”を浮き彫りにする。





作品背景

映画『ポバティー・インク』は、2007年に開始し、2011年に正式に設立された「ポバティーキュア」という貧困削減に向けて活動する人々の国際的連携を目標とするプロジェクトから芽生えた。個人の創造性を引き出すことが人間の繁栄であるというモットーのもと、数年がかりで、20カ国、総計200回以上のインタビューの研究や撮影を行った。加えて、350以上のパートナー団体と、144ヶ国にわたる120万人のファンを持つフェイスブックページのコミュニティを作り上げた。

監督：マイケル・マシスン・ミラー 撮影：サイモン・シオンカ 製作総指揮：クリス・マウレン

プロデューサー：ジェイムス・F・フィッツジェラルド, JR.、マイケル・マシスン・ミラー

脚本：ジョナサン・ウィット、マイケル・マシスン・ミラー、サイモン・シオンカ

編集：サイモン・シオンカ、トム・スモール

製作：ポバティーキュア, アクションメディア コールドウォーター・メディア

配給：ユナイテッドピープル

2014年/アメリカ/91分 オフィシャルサイト：<http://unitedpeople.jp/povertyinc/>

(c)PovertyCure

受賞歴



アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭 2014 オフィシャルセレクション

オースティン映画祭 2014 オフィシャルセレクション

バハマ国際映画祭 2014 ベストドキュメンタリー賞

チャグリン国際ドキュメンタリー映画祭 2014 新進映画製作者賞

スターツ・デンバー国際映画祭 2014 オフィシャルセレクション

ワーカーズ・ユナイト映画祭 2015 観客賞

ソーシャル・インパクト・メディア・アワード 審査員特別賞

国際クリスチャン映画祭 2015 クリエイティブドキュメンタリー大賞

他多数出品・受賞

海外の多くの有名大学で上映されています

- ・ハーバード大学 (ビジネススクール、ケネディースクール、教育大学院)
- ・マサチューセッツ工科大学 (グローバル・スタートアップ・ワークショップほか)
- ・スタンフォード大学 (アフリカ学生委員会)
- ・ケロッグ経営大学院 (マネジメント・ネット・インパクト・クラブ)
- ・イェール大学 (マネジメントスクール アフリカン・ビジネス・クラブ)

その他多数



#1 ハイチの米 「悪魔の協定」



アメリカーハイチ間の貿易と農産業に関わる政策は、かつて存在したハイチの米作を減らし、自己供給不可能な状況へと追い込んだ。これについてクリントン元首相は、「私達は悪魔の協定を結んでしまった」と反省の弁を述べている。

#2 親に力を 「孤児院では受け入れ続けられない」



職人、事業家、そして誇り高き働く母親でもあるマキリーン・ベルニス。「アパレントプロジェクト」で得た収入で購入した家の前に、子供たちと立つ。

「親に力を与えることは親の何倍もの数の子供ども達を助けることにつながる」と、アパレントプロジェクト創業者であるシェリー・クレイは話す。「私達のプロジェクトには 250 人の労働者がいる。ということは最低でも 750 人の子供達を助けていることになる。もしも彼ら家族全員を支えていると考えたら、2000 人の人々を助けていることになる。孤児院では 750 人もの子どもを受け入れ続けることはできない」

#3 ハイチを活気づける 「最大のライバルは支援物資」



ハイチ随一のソーラーパネル製造会社、エネルサ（ENERSA）へようこそ。
エネルサは、ハイチ出身の起業家アレックス・ジョージとジーン・ロネル・ノエルが、世界で最も貧困なコミュニティの一つで暮らすハイチの人々を活気づけるために設立した。彼らが直面する最大の問題は、大地震後、チャリティーとして無料のソーラーパネルが大量に送られてくる中で、ビジネスを続けることだ。

#4 起業家精神 「成長を阻むのは資金不足だけではない」



ガーナの小さな商店の前に立つ起業家。マイクロファイナンスがいかに発展途上国の発展の支援となるか話題になったが、彼のような起業家が直面する問題は資本不足よりも遥か奥深くにある。適切な所有権や法律が確立されてない環境だ。

製作者

監督・プロデューサー：マイケル・マシスン・ミラー

ポバティーキュア設立者、ポバティーキュア諮問委員会会長、アクション・インスティテュート主任研究員であり、ポバティーキュア DVD シリーズの主催者、そして監督でもある。



哲学、国際開発、国際ビジネスの学士号を有する。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ各国を旅し、居住した経験をもつ。

国際開発、起業家精神教育、政治学、道徳哲学など、幅広いテーマについて講演活動を行っている。フォックス・ビジネスをはじめ多くのラジオ番組に出演しているほか、ニューヨーク・ポスト、ワシントン・タイムズ、デイリーニュース（ロサンゼルス）、デトロイトニュース、リアル・クリア・ポリティクスで執筆も行っている。

撮影・編集：サイモン・シオンカ

16歳の時から映画製作をはじめ、これまでに32の国々で撮影を行ってきた。特に東欧とアフリカの孤児の話に焦点を当てたり、人身売買撲滅プロジェクトに携わり、ロシア、モルドヴァ、メキシコ、アメリカの人身売買から逃れた人々をドキュメンタリーに収めたりしている。どの作品においても、人間の美しさや尊厳、創造力を映し出している。

共同プロデューサー：アニエルカ・ミュンケル

ニカラグア生まれ。ポバティーキュアの財務チームメンバーでプロジェクトマネージャーを務める。

ニカラグアでは観光大臣のアドバイザーや、投資促進機関であるプロニカラグア（PRONicaragua）で政府投資ネットワークのコーディネーターを務めていた。そこでは、エンリケ・ボラーニョス前大統領の演説に携わったり、外国企業の投資機会の交渉を行ったりした。執筆した『ニカラグア：成功を目指す国連の実験国』という記事では、2005年の国連によるGINプロジェクトの結果についてまとめている。アメリカ国務省の人物交流プログラム（IVLP）にも選出された。

国際関係の学士号を取得したのち、ノートルダム大学の社会起業プランコンテストで優勝し、名誉MBAを取得した。